

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ネパール連邦民主共和国

西ドティ地域開発プログラム(NPL-196899)



いつもお手伝いしている家庭菜園でお母さんと

チャイルド・スポンサーから送られた
エコバッグを持つサルちゃん(9歳)

チャイルドストーリー 子どもたちが健やかに成長できる 地域へと変わりつつあります

西ドティ地域開発プログラム(以下、ADP)の村で暮らすサルちゃんは、母親と5人の兄弟と一緒に暮らしています。父親はインドへ出稼ぎに行っており、年に一度帰ってきて家族の1年分の生活費を手渡してくれますが、足りない分は村の人に借金をして暮らしていました。また、学校や保健施設が遠いことや、地域の人々の衛生に関する意識が低いことなど、サルちゃんや兄弟が健やかに成長する上で多くの課題がありました。

しかし、サルちゃんがワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録されてから、貧しさに喘いでいた生活が変わり始めました。母親が支援による貯蓄グループのメン

バーとなり、貯蓄を始めたことで、人から借金することがなくなりました。また、家族で衛生・栄養・子どものケアを学び、学んだことを実践した結果、子どもたちが前よりも元気になりました。自分たちを応援してくれるチャイルド・スポンサーは、サルちゃんだけでなく家族にとっても大切な存在です。

家事のお手伝いや弟・妹の面倒をみるかたわら、暇さえあれば教科書を読んでいるというサルちゃん。「大きくなったら看護師になりたいの。小さな子どもたちに予防注射を打ってあげるんだ」と笑顔で語ってくれました。

母子保健プロジェクト

5歳以下の子どもたち、お母さんたちの健康改善に取り組んでいます


2014年度は、栄養価の高い食事や、子どもの定期的な成長モニタリングの重要性など、女性向けの様々な啓発活動に力を入れました。これまでの活動の結果、人々の意識は少しずつ変化しており、深刻な肺炎や脱水症状を起こす子どもが減少しました。また、出産した女性のうち、SBA（助産専門技能者）の介助を受けた割合が2013年の65%から98%に増加しました。子どもたちや妊産婦が適切にケアされるようになってきています。



ADPの支援によりワクチン接種の訓練を受けた女性が乳児にBCGを接種する様子



出産前健診を受ける女性

SBAの介助を受けた出産が
 **65%**から**98%**に増加

生計向上プロジェクト

子どもたちが健やかに成長するためには、親の収入の安定が不可欠です

支援地域は、約90%の世帯の年収が約3万円と、ネパール国内でも特に貧困の度合いが高い地域です。2014年度は498世帯に農業トレーニングを実施、特に貧しい49世帯にヤギを支給したほか、職業訓練、協同組合や貯蓄グループの強化を実施しました。トレーニングを受けて作った服を販売し、売上を貯蓄グループで貯蓄する女性や、栽培した野菜を販売し、約5万円を売り上げた男性など、学んだことを実践する人々が出てきています。



支給された鶏が産んだ卵を見せてくれる女性



収穫時期をずらした野菜の栽培方法を学んだ女性。収入が安定し、子どもたちに高等教育を受けさせるために貯蓄も始めました

\$ **498**世帯に
 農業トレーニングを実施


教育プロジェクト

就学前教育の普及と、子どもたちの学習環境の改善に取り組んでいます

2014年度も、教育の重要性についての啓発活動や、就学前教育センターと小学校の教材の整備、教師へのトレーニング、特に貧しい世帯の子どもへの学用品の支給、「子どもクラブ」の活動のサポートなどを行い、就学前教育センターに通う子どもたちの増加や、小学校の出席率の向上が見られました。その一方、支援地域では貧困のため、高校に進学せずインドや都市部に出稼ぎに行く男の子や、早婚をする女の子も多くおり、教育だけでなく生計向上など、包括的な取り組みが必要です。



トレーニングを受けた教師による授業の様子

 小学校の出席率が向上しています

水衛生プロジェクト

水道システムの整備や公衆衛生についての啓発を通じて、衛生環境の改善を目指します

2014年度の一番の成果は、支援地域に住む全4,838世帯の家にトイレが設置されたことです。ADPの活動開始当初、トイレのある世帯はわずか30%でした。トイレを設置するために、WVが各世帯に支給したのは便器とセメントのみ。地域の行政機関やNGO、住民組織と協力して啓発を続けた結果、人々がトイレを持つことの重要性を理解して自主的にトイレを設置しました。衛生環境の改善により、今後下痢などの水が原因で発生する病気の減少が期待されます。

全**4,838**世帯に
トイレが設置されました



WVから支給された便器とセメントで住民自身が設置したトイレ



支援により設置された水道システムで手を洗う女の子。衛生意識が向上しただけではなく、水くみ場までの1時間の道のりを行き来する必要もなくなりました



支援地域の女性のインタビュー

地域の子どもたちの健康改善のための活動に参加しています

Q. 家族構成を教えてください。

義父と子ども3人の5人暮らしです。夫と長男はインドに出稼ぎに行っています。

Q. ADPのどのような活動に参加していますか。

さまざまな訓練を受けたり、ボランティア・スタッフとしてチャイルドのモニタリングを行ったりもしていますが、特に力を入れているのはチャイルド・ヘルス・ナウ・キャンペーンの代表としての活動です。5歳未満の乳幼児死亡率を減らすための方法についての知識を広げるため、村の各家庭を巡回訪問しています。また、行政が妊産婦や乳幼児に基本的な医療サービスを行っているかについてもしっかりと目を配るようにしています。

Q. 活動に参加してどのような変化がありましたか。

家にトイレができました。また、自分たちが食べる野菜を育てられるようになり、栄養ある食事をとって元気になった子どもたちは、支援により学校にも通えるようになりました。

た。息子は「大きくなったらチャイルド・スポンサーのいる日本に、お母さんを連れて行ってあげる」と言っています。私自身も、以前はずっと家に縛られた生活を送っていましたが、様々な訓練やボランティア活動を通し、社会に出ることや知識が増えていくことに喜びを感じています。



支援地域に住むムナさん(37歳)。左はチャイルドとして登録されている息子 テジバッドゥル君

ADPスタッフ・インタビュー



Q.どんな仕事をしていますか。

ADP内の2つの村の開発コーディネーターとして、行政や地元NGOなどとの調整を行っています。また、プロジェクトの立案や策定、モニタリングを行う一方、必要に応じて技術的な指導も行います。

Q.ADPにご家族と一緒に住んでいますか。

私自身は担当している村に住んでいますが、家族はADPから1,000キロほど離れたネパール東部に住んでいます。

Q.2014年度の活動で困難だったことは何ですか。

WVは地域住民が自分たちで地域を良くしていけるよう、住民の力を伸ばす支援をしたいと思っていますが、住民にはWVが何もかもしてくれるものだという考えがある点に困難を感じます。WVのアプローチ

について説明をするとともに、なぜWVの支援プログラムが住民主導で行われなければならないのかが理解できるよう、支援に関わるボランティア・スタッフのトレーニングにも力を入れています。



西ドティ ADPスタッフ ラクスマン・ゴータム (40歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

登録するチャイルドを決めるため、子どもたちや家族の情報を収集するボランティア・スタッフ

会計報告

NPL-196899

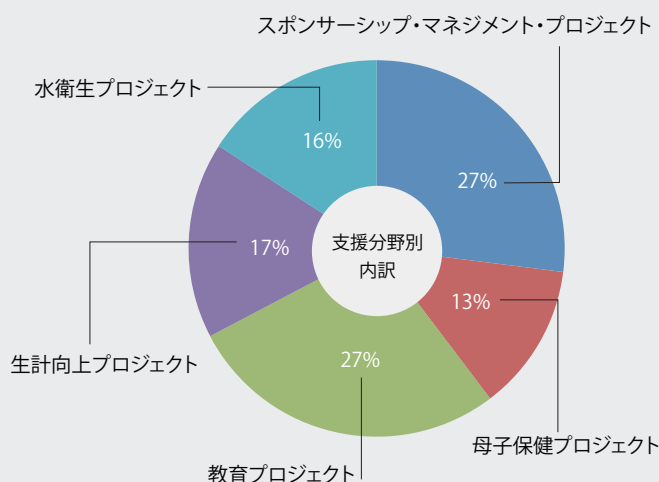
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	29,628,355
当期支援額	29,628,355
前期繰越金	2,047,081
プログラム支援額合計	31,675,436

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,570,358
母子保健プロジェクト	4,028,557
教育プロジェクト	8,764,216
生計向上プロジェクト	5,356,060
水衛生プロジェクト	5,028,207
プログラム支出額合計	31,747,398
次期繰越額	-71,962



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp